

初めて聴いたのに、なんだか懐かしい… 流浪の音楽、クレズマーって知っていますか？

キャスト マックス・エプSTEIN + ウィリー・エプSTEIN + ジュリー・エプSTEIN



有害なナショナリズムとは異なり、彼らは詩や民衆に根ざした音楽の中に答えを求める。  
この美しいドキュメンタリーはひとつの顕著な答えの例である。

ビエール・バルー (散策家)

私が80才になったとき、まだ好きな音楽があるだろうか。踊れる曲があるだろうか。

細川 周平 (音楽評論家)

# キングス オブ クレズマー



スタッフ 監督: シュテファン・シュヴーニャルト プロデューサー: トーマス・クーフス、マルティン・ハーグマン、エドワード・ローゼンシュタイン 撮影監督: ロベルト・リッヒマン  
音楽: アレクサンデル・ダルツェフ、マルカ・ボウティカー 音楽顧問: ジョエル・ルービン 編集: アルバド・ボンディー





スタッフ  
 監督: シュテファン・シュヴィーテルト  
 プロデューサー: トーマス・クーフス  
 マルティン・ハーグマン  
 エドワード・ローゼンシュタイン  
 ロベルト・リッヒマン  
 アレクサンデル・グルツェフ  
 マルク・オットィカー  
 音楽顧問: ジョエル・ルービン  
 編集: アルバド・ボンティエー

# キングス・オブ・クレズマー

a Tickle in the Heart



キャスト  
 マックス・エプスティン  
 ウィリー・エプスティン  
 ジュリー・エプスティン

配給: アップリンク

1996年/アメリカ・ドイツ/84分/16mm/白黒

## ♪ ピーター・パラカン (ブロードキャスター)

一度絶滅しかかった、極めてローカルな音楽文化が世界規模で(静かに)もてはやされる、そんな面白い時代ですね。

## ♪ 巻上公一 (バツニ・ナンモ・クレズマー専属歌手)

クレズマーを知るとニューヨークが一味違ってみえてくる。ペーグルの味も、バストラミサンドの味も、すべてユダヤの味で、たいいみんな知っているのに、クレズマーを知らないなんて恥ずかしい。エプスティン兄弟の演奏はいぶし銀という感じ。それがモノクロの映像とマッチしている。

## ♪ 恩田晃 (オーディオ・スポーツ)

エプスティン兄弟の奏でる調べは、ユダヤ人としての日々を生きてきたエッセンスに彩られている。彼らの音楽にそっと触れてみよう。人生をいっしょに楽しむために。

## ♪ 大友良英 (ミュージシャン)

横軸(地理上)のボーダーにフォーカスを当てたドキュメントムービーが、フレッド・プリンス/ステップ・アコース・ボーダーとすれば、この映画は20世紀という時間の縦軸を見据えたドキュメントだ。

横軸には行き来があるけれど、縦軸は常に過ぎ行くのみだ。一方通行のボーダーを越えることができるのは、音楽や映画といった文化の遺伝子のみだ。ここには濃厚な音楽遺伝子が満ちている。

## ♪ 梅津和時 (バツニ・ナンモ・クレズマー)

あなた達は世界中にクレズマーの子供達を増やしていますよ。ホラ、こんな離れた所にも。きつとご存じないのでしょうか。ねえ。この映画でまた増えてしまいますよ。

## 解説

マックス、ウィリー、ジュリーのエプスティン3兄弟は、フロリダの高齢者専用居住区で半隠居生活を送りながら、今もなお現役で活躍するクレズマー・ミュージックの演奏家である。

クレズマーとは、アシケナジームと呼ばれる東欧系ユダヤ人の伝統音楽である。クレズマー(klezmer)という言葉は本来"音楽家"を意味するイディッシュ語(Yiddish: 中世高地ドイツ語にヘブライ語やスラブ諸語が混成してできた東欧系ユダヤ人の共通言語)であるが、主に放浪の音楽家たちによって演奏されてきたためか、いつしかその演奏者の呼び名が音楽そのものを意味するようになってしまったらしい。それらの流浪の楽士達が数世紀にわたって、シュテートル(ドナウ河以東からロシアにかけて広く分布したユダヤ人の集落)内での結婚式や成人式でのダンスの伴奏に始まり、その外部にも職業音楽家として活躍の場を広げていった結果、クレズマー音楽はユダヤの伝統と、東欧各地のフォークロアの要素が分かち難く混成した独特の音楽性を有するようになった。19世紀後半から20世紀初頭にかけて、東欧系ユダヤ人のアメリカ合衆国への移民が大量に行われたが、この映画の主人公達の両親もポーランドのピンスクからその時代にニューヨークへ移住した人達である。

長兄で、70年以上の芸歴を持つマックスは1912年にロウワー・イースト・サイドで生まれた。両親は音楽家ではなかったが(ただし父は熱心なアマチュアのヴァイオリン奏者であったという)、マックスが7才の時、弟ウィリーの割礼の儀式に呼ばれたクレズマーの楽士が父に、彼にヴァイオリンを習わせるように強く薦めたのを機に、彼の音楽人生はスタートを切ることになる。12才の時にはプロのヴァイオリン弾きとして仕事を始め、その数年後には独学でクラリネットとサクソスを習得し、リード奏者に転向する。あるルー・マニア・レストランでのクラリネット吹きとしての初仕事では、一週間に221ドルを稼ぎ、そのお金を見せられた彼の母親は、「銀行強盗でもしてかしたのかい?」と彼に言ったという。若き日にその音楽家としての才能を開花させ、また街のユダヤ移民達にその才能を認められたマックスは、「boytshik」(イディッシュ語でガキの意)の愛称で呼ばれ、たちまち多くのお祝いの行事に呼ばれて演奏する売れっ子になる。また、その弟達の良き音楽的指導者でもある。

弟のウィリーは1919年生まれて、幼い頃からピアノを習っていたが、兄マックスの薦めでトランペットに転向し、15才でプロの演奏家としての仕事を始めた。彼は兄と共に、東欧から移住してきたクレズマー・ミュージシャンと多くの仕事を共にし、その伝統を直に肌で吸収していった。

末弟のジュリーは1926年生まれ。幼い時から気性の激しかった彼に、マックスはドラムを習わせ、ジュリーは、17才からマックスのもとでプロのドラマーとしてのキャリアをスタートさせる。そしてやがてクレズマー音楽ばかりでなく、ジャズ・バンドやショーの音楽でも活躍するようになる。

現在彼等はアメリカに於ける、東欧系ユダヤ移民の音楽的伝統をダイレクトに継承している数少ない、殆ど最後の人間であると言えるだろう。戦後のクレズマー音楽衰微の後に、奇しくも新しい世代によって「再発見」された彼等は、今では若者達や非ユダヤ人の聴衆にも熱い拍手で迎えられている。その昔、辻楽士に対する乞食同然の蔑称でもあった「クレズマー」という呼び名が、今や最高の芸術家の代名詞であるかのように響く。しかし、彼等の音楽が何ら変わったわけではない。マックスは言う。「いつも自分の音楽が、人の心を震わせるものであることを心掛けているんだ。」と。 野田 茂則(キャロサンブ)

## ♪ 立川直樹 (プロデューサー)

いつも物語を聞かせるように演奏している、というマックスの眩しにも似た言葉が全てだった。どこかで心の記憶を揺らす不思議な哀感。時空を越えたモノクロームのマジックで僕はクレズマーの物語に心底酔わされた。

## ♪ ビエール・バルー (散策家)

バーコード支配下にあえく我らの惑星のそこかしこで内なる要求につきあげられた人々が信号を発信し続けている。それはコミュニティに属する必要性、アイデンティティを求める強い気持ち以外の何者でもない。有害なナショナリズムとは異なり、彼らは詩や民衆に根ざした音楽の中に答えを求め。この美しいドキュメンタリーはひとつの顕著な答えの例である。

## ♪ トニー・タナカ (ビューティ・ディレクター)

異郷の地で出会った「フツパウエティング」静寂の中から浮かび上がった「クレズマーミュージック」に先導されたブライズとブライズグループ、そしてファミリー。「フツパ」で出迎えるラビ・キツパを身につけて参列できたことは鮮烈な思い出となった。



## ♪ Mari Mari (ミュージシャン)

楽園をイメージするヤシの木、1枚の写真の様なヤシの木のシーンが印象的でした。彼らの自由は、音楽で満される。心の中の楽園をようやく手にいれた魅力的なエプスティン兄弟に、「音楽が止まらぬ様に」と願う。時間を刻む映画です。ありのまま、でもこんなにスマート。

# 9月5日(土)~18日(金) 関西独占レイトロードショー!!

連日PM9:00より1回上映(終映 PM10:27) ※初日(9/5) 梅津和時のクレズマーミニ演奏あり

特別鑑賞券1400円好評発売中!! 当日/一般1700円・大学・高校生1400円 中・小・シニア1000円

(クレズマー・ナイト) 9/5(土) PM11:00よりオールナイト(終了AM5:00) 料金:前売3500円・当日4000円  
 「ごまっチャクレズマー」ライブ+「キングス・オブ・クレズマー」+1上映  
 ©「キングス・オブ・クレズマー」公開を記念し、「ごまっチャクレズマー」(梅津和時、関島岳郎、横紅陽、松井亜由美、岡地曙裕、多田葉子)のライブ演奏と映画上映。ドクトル梅津率いる人気爆発のクレズマーバンドに映画という豪華なタッグ!

**シネ・ヌーヴォ**  
 地下鉄中央線「九条駅」6番出口下車  
 大坂ドーム方向へ徒歩2分  
 TEL06-582-1416

地下鉄中央線  
**九条駅** → 本町  
 ← 大坂駅  
 モビル・ナード・ナック  
 6番出口  
 うどん  
 パチンコ  
 商店街  
 アーケード  
 シネ・ヌーヴォ  
 大坂ドーム